

県立東金高等学校

目 標

- ・ 国際貢献の意義と重要性について考えさせる。
- ・ グローバル社会における異文化理解の重要性について考えさせる。
- ・ 国際理解教育を推進し、生徒の留学等に関する興味関心を高める。

海外理解促進のための講演会

1 海外理解促進のための講演会①（国際貢献についての講演）

(1) 日 時：平成30年6月27日（水）13時20分から15時10分

(2) 会 場：本校視聴覚教室

(3) 講 師：氏名 稲葉 健一 氏

所属 公益財団法人 日本生産性本部

(4) 参 加 者：国際教養科 第1学年生徒40名、第2学年生徒39名、教員5名、
計 84名

(5) 内 容：

青年海外協力隊員として1年半、南米パラグアイでコミュニティ開発の事業に携わった方から、講演をいただいた。講演の最後には、質疑応答を行った。



(6) 事前学習：

各ホームルームにおいて、パラグアイについての基礎資料を事前に読ませ、基礎的な知識を身につけさせるとともに、その国について知りたいことや、講師の方への質問事項をまとめた。

(7) 事後指導：

各ホームルームで感想文を書き、何点かを講師に送付した。

(8) 参加者の感想等：

- ・ 私たちは富を独占するのではなく分け合うべきだと考えさせられた。
- ・ 自分で気づき、考え、行動することの大切さ。無から考えて生きる賢さ。現状が悪くてもめげないでよくしていこうというメンタルがすごいと感じた。
- ・ 簡単な選択をするのではなく、生産の仕方を教えるというのがボランティア。ボランティアの概念が変わった。

2 海外理解促進のための講演会②（海外理解促進のためのワークショップの開催）

- (1) 日 時：平成30年11月28日（水）13時20分～15時10分
- (2) 会 場：本校 1年E組教室 2年F組教室
- (3) 講 師：氏名 熊澤 杏里 氏
所属 青年海外協力隊員 ウガンダで小学校教育に従事
氏名 永井 大策 氏
所属 JICA 千葉デスク 国際協力推進員
- (4) 参加者：国際教養科 第1学年生徒40名、第2学年生徒39名、教員3名、
計 82名

(5) 内 容：

青年海外協力隊員として、ウガンダとガボンで活動された方から、体験を語っていただくことに加えて、貿易ゲームという活動を通して国際格差を認識させ、日本の国際協力の必要性について理解させた。



(6) 事前学習：

各ホームルームにおいて、ウガンダとガボンの基礎資料を読ませ、基礎的な知識を身につけるとともに、その国について知りたいことや、講師の方への質問事項をまとめた。



(7) 事後指導：

各ホームルームで感想文を書き、何点かを講師に送付した。

(8) 参加者の感想等：

- ・自分たちで体験することによって少しだけ世界の抱えている問題や様子など分かった気がした。国際協力はとても難しいことだなと身をもって感じた。貿易ゲームを通して、格差について学べるとても良い機会となった。

事業の成果

- ・ 南米やアフリカといった、普段馴染みのない国々での体験を聞くことで、異文化に対する興味や関心が高まった。国際貢献の必要性や重要性について、理解を深めることができた。

今後考えられる新たな取組

- ・ 近隣大学の留学生との交流会
- ・ 外部団体の国際交流イベントへの積極的参加
- ・ 講演中心の講座のみではなく、生徒も参加できるワークショップ形式の講座の開催